



ペテロ

2019年6月1日発行
(毎月1回1日発行)

カトリック谷山教会

891-0113
鹿児島市東谷山2-33-13
TEL 099-268-2084
FAX 099-284-5738

E-Mail: taniyama-cc@lagoon.ocn.ne.jp URL: <http://www5.ocn.ne.jp/~tycc/>

発行人： 頭島 光 神父 編集委員： 太田勇二郎 Sr.下川千穂子 岸誠之助

未来に希望を託して！

新時代に入り、夢と期待をもって臨んだはずでしたが、世間はやはり平和ではありませんでした。あまりにも悲しい事故、痛ましい事件が後を絶たないからです。5月のあの大10連休の直後でした。交差点待ちをしている園児の列に車が突っ込み、園児と保育士15人が巻き込まれ二人の園児が犠牲になりました。そして、今月(5月)28日、おぞましい事件が起ってしまいました。心から、ご冥福をお祈りいたしましょう。

◆ 希望の6月

余りにも悲惨な出来事を目の当たりにすると、私たちは「一体これは何か」と不信を募らせます。そして、疑念すら抱くものです。突然、悲しみの淵に落とされた人々に、どんな慰めの言葉をかけられるでしょうか。全く言葉がありません。それでも今月、私たちは毎週、「主の昇天」「聖霊降臨」「三位一体」「キリストの聖体」と祝日で一杯の6月を迎えます。月末には、さらに「イエスのみ心」と「聖ペトロ・聖パウロ」の祝日も迎えます。まさに、これは「希望の6月」です。だから、私たちは何があっても常に「平和であるように」と祈り続けましょう。



◆ イエスが福音

イエスは「まだ言っておきたいことが沢山あるが、あなたがたには理解できない」と言っています。この言葉は、いよいよ十字架の死に赴く前に、「最後の晩餐」の席での言葉です。つまり、事が起こってしまっただけからでは、「命」や「愛」について、また「罪」について、答えが出せないからです。だから、イエスは事が起こる前に「真理の霊を送る」と約束なされたのです。この時、確かに弟子たちは、イエスの言葉を理解できませんでしたが、後になって、聖霊が降ったとき、「イエスそのものが福音」であることを悟っていたのです。

◆ 福音は、唯一の希望

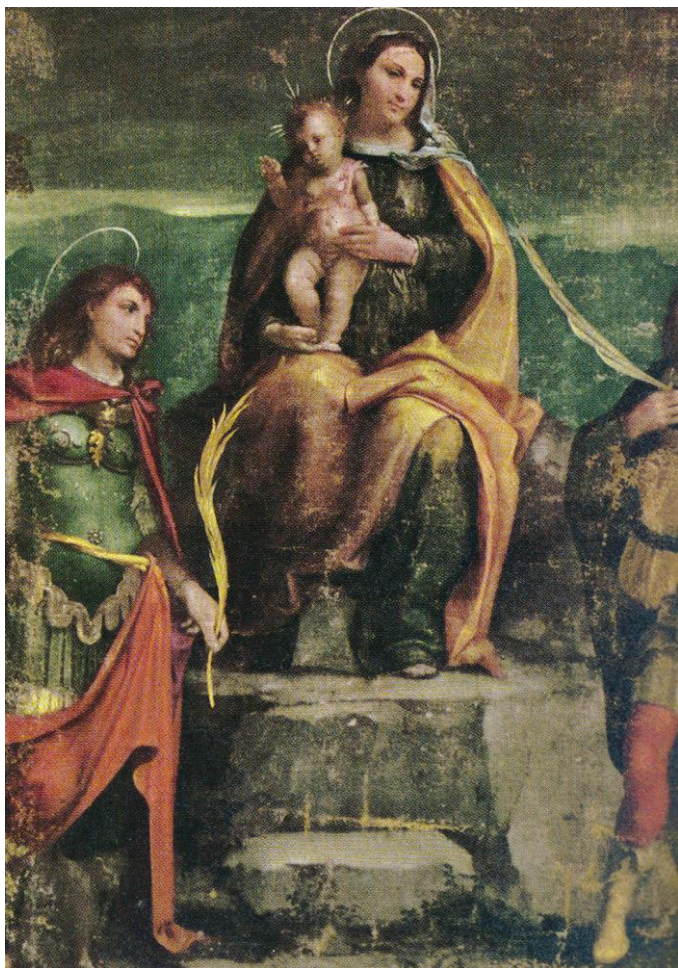
「事の起こる前に・・・」というイエスの言葉には深い意味があります。想定外という表現は、とくに災害等が起こるたびごとに使われました。私たちは信仰において想定外がないことを知る必要があります。信仰とは、世界の中で起こりうる、あらゆる人間的な恐れ、不安、失敗、そして想像し得るすべての苦難を乗り越えさせる意味での、希望を失わせない恵みです。福音を信じるということは、まさに唯一の希望、何をも超える、恵みの賜物なのです。今のこの苦しみ、痛みを、たとえ理解できなくとも、神は必ず悟らせてくださるからです。

◆ 聖霊の賜物

聖霊の力は無限です。限りなく、私たちの力となる主だからです。主である聖霊は、私たちに勇気と愛を注ぎます。そしてイエスが語られた愛を思い起こさせます。聖霊は私たちの弁護者です。イエスのみ言葉を悟らせてくださるからです。聖霊はみ言葉を思い起こさせ、慰めて下さいます。もはや聖霊の促し、導き、照らしなしに、私たちは何も為し得ません。聖霊の助けによってのみ、福音を宣べ伝え、愛が実践され、信仰を生きることができるようになります。

主任司祭 トマ頭島光 神父

ヴィト殉教者



ヴィトはどの時代に生きていたか、はっきりと分らない。しかし、ディオクレチアヌス皇帝の治世であったと思われる。伝説によれば、シチリアで生まれ、7歳頃ひそかに洗礼を受けてキリスト信者となった。

彼が教師と乳母と一緒にシチリア旅行をしていた時に、彼の信心深さと奇跡を行う力がローマの役人の目にとまって、ヴィトに教を棄てさせようと懸命に試みた。色々な刑罰を試したが効き目がなく、かえってそれは彼に奇跡を行わせる機会になってしまった。例えば、飢えたライオンの前に投げ入れられた時でも、そのライオンが懐かしそうに、ヴィトを舐めるばかりであったと云う。

ヴィトの遺物は最初パリに送られ、次にサクソニーへ送られたが、それは病気を治す力があって、その前で祈ると病が治されたと伝えられている。

彼はてんかん病やコリーア病（舞踏病）患者の守護の聖人である（コリーア病は今でも「聖ヴィトのダンス」と呼ばれている）。また、この聖人は、狂犬病や毒蛇にかまれた害から人々を救うとも信じられ、ダンサーや俳優の守護の聖人でもある。

Taniyama CC NEWS

5月3日レデンプトール修道女会の3人のシスター方の誓願宣立記念ミサが、谷山教会で中野司教様司式により行われました。

シスターカタリナ、シスター下川、シスター小牟田の方々に、それぞれ誓願60、50、25周年を迎えられました。ミサの中でシスター方は、それぞれ決意や未来へのお願いを神に祈っておられました。ミサ後は、クレメンホールで御馳走を戴きながら祝賀会が行われました。

飛び出した司教様の歌もご自分で自慢されただけあって…お上手でした。シスター方、長年の間、教会のため、私達のために尽力下さり、本当にありがとうございます。これからもどうぞお元気で活躍されますようにお祈り申し上げます。



ミサ典礼には一つの大きな流れがあります。それは入祭に始まり、閉祭に終わる中で、私自身が、新しい人になるという流れです。入祭の時と閉祭の時とでは、もはや私は完全に別ものに変えさせられているのです。司祭が、入祭の挨拶で「主は皆さんとともに」と言い、会衆はこれに応じて「また司祭とともに」言っています。誰が、私とまたあなたと共にいてくださるのですか？。勿論、それは神です。神ご自身が共にいて下さるから、私は変わるのです。神のみ言葉が語られ、救いの福音を聞き取り、ご聖体を頂いたのですから、もはや神なしに私という存在はありえないし、復活の信仰なしに私は何も為し得えない存在なのです。

インドネシア訪問記

トマス頭島光神父



5月13日、再び私はインドネシアに飛びました。バリ島からスンバ島へ約一時間のフライトは翌日の14日でした。午後3時過ぎ、飛行機はほぼ満員の乗客を乗せてタンブラカ空港に着陸。空港で大勢の人々がごった返すなか、助祭のオフアンさんの出迎えを受け、叙階式が行われるカテドラル聖堂に到着。その隣にあるレデンプトール会の黙想の家が宿泊場所でした。叙階式は日本語をともに勉強したニコ助祭とともに受けるのですが、その他にも3人が叙階の恵みを受けることとなっていて、一度に5人も叙階されることにも驚きでした。

その日の午後5時から、何やら儀式があると言うので、聖堂に入ってみると、翌日の叙階式で渡される祭具、そして祭服の祝別式が行われていたのです。後ろの席の方に座り、観ていると、どうも5人の受階者のご両親ご家族の方々も、その儀式に預かっていました。そして、勿論、その祝別はその司教様が執り行っていたのです。彼は実は元レデンプトール会司祭のエドモント・ボーガ神父で、私の友達でもありました。ドイツ留学の時の友達だったので、彼に会えたことは、私にとって大きな喜びでありました。儀式の後、香部屋に行き、挨拶をしたところ、とても喜んでくれて感激でした。

さて、いよいよ本番です。翌15日、式は朝8時半

当然です。喜びは儀式だけでなく、後から始まった祝賀式、そして食事会も豪勢でした。

日本と違うのはアルコール類が一切ないということでしょう。お祝いの時になどに、飲むという習慣がない、というのを後から聞きました。でも、私がインドネシアで感動するのは、そういう慣習的なことではなく、むしろ、人々です。スンバの人々は普通の民衆です。私たちと変わらない信者なのです。私はそこにいながら、自分がみなとは違う外国人と異国人という感覚にないということでした。極端に言えば、私もあなたたちと同じ信者だということです。彼らは純粋に自分たちの間から司祭が生まれたことを喜びます。自分たちのことのように踊り、自分た



から始まりました。長時間になるとは聞いていましたが、終わってみると12時を回っていました。およそ3時間半でしたが、長く感じなかったのは恐らく私だけではなかったでしょう。皆が喜びに満ち溢れ、共に神に賛美し感謝して歌い、祈っていたからです。島中挙げての喜びがそこにあったのでしょう。1500人ほどがそこに集まっていたのですから、

ちなみに歌い、祈るのです。キリスト教はヨーロッパから来た外国の宗教という考えがそこには微塵も感じられませんでした。何の違和感もなく、一日を過ごせたことに私自身が驚いていたのです。主よ、どうか私たちも力をお与えください。愛をもって福音を宣べ伝える勇気と互いの信頼をお与えください。

令和元年 谷山教会 6月の予定と祝日表 (6/1~6/30) 西暦2019年

日時	典 礼 と 行 事	朗読奉仕	掃 除	班 会 等
6月1日 (土)	記念日 聖ユスチ/殉教者 19:00 主の昇天のミサ			
2日 (日)	祭日 主の昇天 6:30 & 9:00			
3日 (月)	記念日 聖カロ・ルワガと同志殉教者 6:30 朝ミサ			
4日 (火)	6:30 朝ミサ			
5日 (水)	記念日 聖ボニファチオ司教殉教者 19:00 水曜ミサ (ミサ後) 受堅準備勉強会⑤			
6日 (木)	朝ミサなし			
7日 (金)	6:30 朝ミサ			
8日 (土)	19:00 聖霊降臨の主日のミサ			
9日 (日)	祭日 聖霊降臨の主日 9:00 (6:30朝ミサなし) 13:00 聖霊降臨祭 (北薩大会 in 川内)			
10日 (月)	記念日 教会の母聖マリア 6:30 朝ミサ			
11日 (火)	記念日 聖バルナバ使徒 6:30 朝ミサ			
12日 (水)	19:00 水曜ミサ			
13日 (木)	記念日 聖アントニオ(パトハ)司教教会博士 6:30 朝ミサ			
14日 (金)	6:30 朝ミサ			
15日 (土)	19:00 三位一体の主日のミサ			
16日 (日)	祭日 三位一体の主日 6:30 & 10:00 聖アルフォンソ合唱団ミサ曲奉献(10時ミサ)			
17日 (月)	6:30 朝ミサ			
18日 (火)	6:30 朝ミサ			
19日 (水)	水曜ミサなし			
20日 (木)	6:30 朝ミサ			
21日 (金)	記念日 聖アロイジオ・ゴンザガ修道者 6:30 朝ミサ			
22日 (土)	19:00 キリストの聖体のミサ			
23日 (日)	祭日 キリストの聖体 9:00 初聖体式 (6:30朝ミサなし)			
24日 (月)	祭日 洗礼者ヨハネの誕生 6:30 朝ミサ			
25日 (火)	6:30 朝ミサ			
26日 (水)	水曜ミサなし			
27日 (木)	祝日 絶えざる御助けの聖母 6:30 朝ミサ			
28日 (金)	祭日 イエスのみ心 6:30 朝ミサ			
29日 (土)	祭日 聖ペトロ 聖パウロ使徒 19:00 年間第13主日のミサ			
30日 (日)	6:30 & 9:00 年間第13主日 ひまわり幼稚園運動会 9:00~			
ロザリオの祈り	[毎週(火) 10:00]	4日、11日、18日、25日		
レジオ・マリエ	[毎週(水) 14:00]	5日、12日、19日、26日		
聖書と教理- I	[毎週(木) 15:00~16:30]	6日、13日、20日、27日		
聖体礼拝	[毎週(木) 13:30~14:30]	13日、20日、27日 6日の第1回はサビエルで7:00から		
聖書と教理- II	[毎週(金) 9:00~10:00]	7日、14日、21日、28日		

奉納は掃除当番班が行う
六月の行事当番は六・七班